


次世代(機関)リポジトリ(業務)

—10年後にどんな仕事をしていきたいか？

「次世代リポジトリ」を考えよう
第19回図書館総合展フォーラム
2017/11/7 (火) 13:00-14:30

九州大学附属図書館eリソースサービス室リポジトリ係・林 豊

 <https://orcid.org/0000-0001-7761-3444>

※注意：今日はあえて偏った話をします

**機関リポジトリのしごと、
好きですか？**

本当に好きですか??

私は担当になって3年半ですが、
いまだにいろいろもやっとしてます。

楽しくない、とは言わないですが、

て、

次世代、リポジトリ???

って言われても正直……

大学図書館は人員削減、予算削減の波

新しい仕事は増えて、
古い仕事はなかなか消えてくれない

あれこれあって自動化がうまくいかない
手作業がなくなるならない

なかなか明るい未来を描きにくい状況、
では、ある

さて、

日本初の機関リポジトリから、15年

- 当時と同じこと、変わってないこと
- 当時の想定内のこと、予想もしなかったこと
- 15年でうまくいったこと、うまくいってないこと

次の10年、15年を考えてみたい

2030年に

**「ちまちま出版社のポリシーを調べて
著者最終稿を公開する」**

という作業を続けていて、幸せだろうか？

Noだ！ (私見です)

じゃあ、変えなきゃ。

といっても、どうすればいいのか？

自分はどうしていきたいのか？

自分は何に**楽しい**んだろう？

- 紀要、博論、灰色文献、絶版図書、、、
- 登録者や利用者からの感謝の声
- 「〇〇を登録したい」という教員からの提案
- システム連携、メタデータ流通の成功
 - Google Scholar、JaLC DOI

自分は何に**楽しくない**んだろう？

- 完璧なメタデータ記述へのこだわり (⇔IDの普及)
- イケてないシステム連携の維持
- なにより、著者最終稿……
 - 出版社の著作権ポリシーのチェック
 - 研究者に「登録がめんどい」と言われる
 - 必要なのはもっと本質的なアドボカシーでは？

無理やりまとめると、

「機関リポジトリ**ならでは**の仕事がしたい
(なるべくラクに)」

**機関でtake controlできるコンテンツ
どこにもメタデータがないコンテンツ**

こそが、機関リポジトリにふさわしい

- 学内刊行物（紀要、学会資料、パンフレット類など）
- 修士論文、卒業論文
- デジタル化資料（貴重書、PDになった蔵書など）
- 写真、動画、音声
- 研究データ（出版社に権利を握られる前の）
- 講義資料（OER）
- 博物館資料、文書館資料
- 学内ウェブアーカイブ
- 教員のプロフィール（退職者も含む）、……

- 論文だけじゃなく
 - 機関リポジトリ≠デジタルアーカイブ？ 図書館に多くのシステムを維持する体力はもうない
 - 包括的なメタデータ
- オープンー辺倒じゃなく
 - 学内限定、ID/PW、ダークアーカイブ、メタデータのみ
- 単なるダウンローダーじゃなく
 - コンテンツの見せ方へのこだわり、自由度が欲しい
 - ショーケース
- 長期保存、信頼性

そんな**多様さ**を支えられる
リポジトリシステムを！（期待）

メッセージ

- 15年後に自分たちはどんな仕事をしていきたいか？
 - 海外は……、とか、国が……、とかじゃなくて
 - JPCOARは自分たちの希望を実現するための“手段”
- 機関リポジトリならではの仕事って？
 - =“出版”
 - 出版社に権利を握られたままグリーンOAを続けるなら自動化が必須
- コンテンツの多様さを活かせる次世代リポジトリシステムを！